

喜怒哀楽

詠み人応援マガジン・詩歌俳壇ニユース

にいがた 食の歳時記 ～笹団子～



小腹が減った。何かないかと考える。そういえば、もうすぐ5月。このころになると、昔はおばあちゃんが笹団子を作っていたなあと思い出す。中に餡子が入っている、緑色のアレ。笹で巻かれていて、とてもいい匂い。今ではすっかり新潟土産として定着して、通販で買えたりするようになった。そういえば以前、本誌の取材で手作り体験をしていたこともあったっけ。餡子が使われるようになったのは、砂糖が一般に普及するようになってからとか。中にキンピラや海藻が入ったものもある。考えただけでお腹が鳴る。さて、今日のおやつは笹団子でも……。

「喜怒哀楽」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し(株)ミュージック・コーポレーション喜怒哀楽書房が隔月発行している情報誌です。

4-5
Vol.103

温古知新 ⑤ 「菜根譚」27

寒さも落ち着いて、もう春！春眠暁を覚えずですが、「温古知新」でしゃっきりしていただければ幸いです。

澹泊の士は、必ず濃艶なる者に疑われ、檢飾の人は、多くは放肆なる者に忌まる。君子、此れ処するに、固より少しも其の操履を変ずべからず、亦ただ其の鋒芒を露わすべからず。

(無欲な人は、必ず派手好きな人から疑われ、厳格な人は多くは勝手な人から嫌われる。君子がこのような人々に対応しなければならぬ時は、自分の哲学を決して変えてはならず、またその矛先を露骨に見せてはならない。)

上に立つ人というのは、ただ感情に流されず、自分なりの哲学を持って、常に冷静であらねばならないという事でしょうか。

逆境の中に居らば、周身皆鍼砭薬石にして、節を砥ぎ行いを礪くも、而して覚らず。順境の内に処らば、満前尽く兵刃戈矛にして、膏を銷かし骨を靡らすも、而して知らず。

(逆境にある時は、後に自分が成長する機会の中にあるのだが、本人はそれを自覚で

きない。順調な境遇にある時は、結果的に心身が消耗する戦火の中にあるようなものだが、本人はそれに気が付かない。)

逆境だから、順調だから、というのではなく、常に上を目指していく気持ちが大仕事ですね。

富貴の叢中に生長するは、嗜欲、猛火のごとく、権勢は烈焰に似たり。若し些の清冷の気味を帯びざれば、その火焰、人を焚くに至らざるも、必ず將に自ら燦かんとす。

(金持ちで身分の高い人々の間で育った人間は、欲望は猛火のようであり、権力志向は強烈な炎のようである。そのような人間は、もし少しでも清く冷静な気持ちを持っていなかったら、他人を焼くに至らずとも、自分で自分を焼いてしまうことになる。)

少なからず、周りの環境は自身に影響を及ぼすもの。惑わされたい心を持たなければ、自らを滅ぼしてしまいます。

人生常に平常心！何物にも惑わされな
い、強い心を持ちたいものです。

(古川久美子)



海原俳句会

代表 安西篤様

(東京都・新宿区)

3月2日、新宿の家庭クラブ会館で開催された「海原」の東京例会にお邪魔しました。

「海原」は昨年2月に他界した金子兜太氏の「海程」の後継誌として同年9月に創刊した俳誌で、兜太氏が提唱した理念「俳句形式への愛を基本とし、俳諧自由の精神に立つ」を継承しています。

事前に用意された92句の句稿を一覧した瞬間、おお、普通じゃない！とワクワクしながら、これもいいあれもいいとどんどんチェックがつき期待感が増します。さてどんな句会となるのでしょうか。披露に続き、高得点句から。

◎11点

一周忌つてまだ仮縫いのよう土筆

斗士

「仮縫い」が、金子先生の一周忌が済んでもまだ本気になれない、しつくりきていないという想いを表わしている



▲代表 安西篤様

／あつという間に一周忌がきて、本縫いとは程遠い仮縫いのような心情のまま、野には土筆がすくすくと育っている。そこに海原の伸びていく姿を重ねて読むとおもしろい。「仮縫い」という言葉で、先生を失い虚ろっている思いが表現されている。「仮縫い」が微妙に一周忌と土筆に両がかりになっていて、一句になったときに本物になっていない感じがよく出ている。読むほどに、抜群にうまいと思った。「仮縫い」という例えが、気が利いているがわかり過ぎて、まだまだだなという感じ／一周忌つて、の「つて」が甘く感じられて採らなかった。「一周忌仮縫いのように」で十分／「つて」は甘いと思うが、幼子のように先生を慕っていた、それを土筆の幼さと「つて」で、さらに強調したのでは。

◎10点

忘れたい障子の穴に蝶を貼る 葛子

具象のラインとイメージのラインが嫌味なく並んで溶け合って、いい空気を出している／蝶を貼るがおもしろい。障子の穴を忘れたいというのと、忘れたいことがあつてそのために障子に蝶を貼ると、読み手が勝手に想像力を働かされるところがいい。「忘れたい障子の穴」ではなく、「忘れたい」で切れると思う。だとしたら忘れたいが何を指示しているかイメージできず、そこが惜しい。「忘れたい」で切れる、蝶で忘れたいものを心情的に覆いたい気もあったのかもしれない／蝶じゃなくても成立するかなーと思っているうちに見過ごした／忘れたい障子の穴つてどれくらいドラマなんだろう

みんなこういう自由さに憧れる。絮毛だと自由だという気分の方に流れるが、言葉としては「出掛けます」で引き締めている／たんぼほの絮毛を擬人法的にとらえている／素直な感性で書かれていながら誰も否定はできないが、それをよしとするかしないか。伊藤園新俳句大賞ジュニアの部では佳作に選ばれるでしょう(笑)／これはジュニアでは作れない大人の句。軽い生活感、日常感がいい。押しとどめようのない口語俳句のお手本のような句。

◎7点

暗闇は何故か小声に沈丁花 雅彦

「暗闇は何故か小声に」は本能的にあり、生々しい実感が共感できた。「明るいところで大きな声」の反対で、沈丁花の「沈」が効いてなかなかのセンス／明るいところと暗いところの光と闇、色とにおいと音をいい感覚で掴んでいる／こういう句は難しい。チェックはしたが言っていることは普通。沈丁花ではないもつといい季語があるのでは。「なぜか」が気になった。沈丁



▲「海原」通巻6号3月号
入会／購読申込 千葉県市川市稲荷木2-14-9 武田伸一様

花と暗闇はつく／つく、つかない以前になぜそこまで言わなきゃならないのか、それを言わないのが俳句。

猫だつて星を数える木の芽時 珠美

猫は時々哲学者みたいな顔をしてじーっと空を見あげている。星と木の芽時のファンタジックな取り合わせが素敵／作者自身が鬱っぽい気分分、抱っこした猫と一緒に星を見ている景を思い浮かべてしみじみした／木の芽時が合いそうで合わない季語。ものを感じる季節というのはわかるが、ちょっと作り過ぎな気がしていただけなかった／木の芽時の猫は、星を数えるどころか猫の恋で静かに星を見ているような状態ではない／この猫は去勢されているから星を数えているのでは。そう考えるとなかなかいい句(笑)／「だつて」が気になった。猫ですらというなら、猫側としては差別(笑)／作者は、ただ猫じゃだめだと独自性を出そうとして「猫だつて」と強調している。

作者：ノーコメント(笑)。

見玉さん逝ききさらぎの草の妻 愛子

「草の妻」という言葉の使い方に驚いた。野草を愛し野草からも愛されているという感じが伝わってくる／ご存知ないかもしれないが、作者は見玉さんの「漂うともちがうただよい草の妻」の句を踏まえて作っている／まさに見玉さんそのもの。追悼の想いが色濃く伝わってくる／追悼句に文句を言うのも申し訳ないが、追悼句とするにはもったいない。逝くとしなないで「見玉悦子さんきさらぎの草の妻」と詠った方がいいのでは／今日この句会での句によって見玉さんに会えた。

◎6点

足音が儂いなんてマスクして 郁好

口語がうまく効いている。「足音が儂い」も鋭い感覚で、深刻な内容だがそれが「なんて」によって軽々としてくる／金子先生は「重たいことを軽く書く」と教えてくださった。重いか軽いか実際にはわからないし、誰がマスクして誰の足音が儂いのか今ひとつわかりにくいのが、伝わってくるものがある／なんて、が難しいが、マスクしてそんなこと言っているというふうに読んだ。「マスクして」で説明したところが残念／都会に住んでいる人の孤独感、そういった微妙な心情が「足音が儂いなんて」のフレーズによって醸し出されている。

鬱という一つの漂泊花薊 雅彦

鬱を漂泊といった、これにまいった／類想類句あるように感じるが、はっきり言い切った句はあまりないかも。鬱の時代に漂泊感を感じるということに深い共感を覚えた。よく花薊をもってきた。「一つの」がくどい。「鬱という漂泊」の方がぐっとしまる。「鬱という漂泊」だと直接的すぎる。一つが効いている。様々な漂泊感のなかの一つとして鬱を持ってきた。花薊のさすらいの感じが、よく効いている。

春禽が啄んでゆく男の詩 由貴子

原稿か何か書き散らしたものが庭のところに落ちて、という実景が見えつつ、もう一つはこの男性の才能の一部が啄んでいかれると読めるおもしろい句／実景とは思わなかった。春禽が詩的で、うまく言えないが好き／句としてはできているが、当たり前の句。

冴え返る鳥たちの胸ひかるから 郁好

「鳥たちの胸ひかるから」の表現がとてもいい／感覚は好きだが、うまいというわけではなく普通／なぜ「光るから」と因果関係にしたのか。「冴え返る」と「鳥たちの胸ひかる」を並列にして「冴え返る鳥たちの胸ひかるかな」とすれば、取り合わせでもっと光ったのでは(笑)。

病名の五つ並んでふきのとう 宏允

ふきのとうがいい。病気だから辛いはずだが割と冷静に達観している感じと、寒い風の中で耐えている、そんなところもよく出ている／採り損なった。ただふきのとうだけであらゆることを想像させるうまい句／総合病院でいくつかの科を回って診てもらったことが多くなり、ふきのとうは実体感がある。ちょうど5文字で、連想をよぶ面白さもある。

◎5点

厳父なり犬と揃いの赤セーター 収

厳父ときて、犬と揃いの赤セーター、ここでにやりとさせる。いかにもの俳諧のおもしろさ。難解なところが全くなくていい／厳父が赤いセーターを着ていること自体、厳父の別な一面をのぞかせている。しかも犬と同じ赤いセーター。しかつめらしい言い方で出ながら、句全体として諧謔をもたらししているレトリックのうまさ。

春星ふたつ切り絵ひらけば野外劇 友子

春星ふたつが、切り絵の世界に開かれていても野外劇。豊かな世界

梅うふ父描きおる母の顔 大高洋子

いい／子どもの開き絵のような感じが楽しい。春星ふたつ、そして切り絵に誘い、これから何か始まりそうな野外劇の楽しさにもつながっていく。小鹿野あたりまんざくちりちり地に還る 伸一

この前、吟行した小鹿野「あたり」とわざと言って、まんざくをひらがなにした効果が柔らかく出ていて、景が目に浮かんできた。

びゅんと巻尺早春の雲に当てみる 久子

「当ててみる」の間違い？ 春のうきうきした感じと、早春の雲に巻尺をしかもびゅんと当てるというオノマトペの澆測とした感じがいい／「当ててみる」じゃつまらない。「当てみる」に独自性が感じられて、巻尺が空に突っ込んだ感じがする。

◎4点

草青むアルバカと同じ背の少女 愛子

兜太亡く春大根ぶつこ抜いた穴 正名

足長蜂出入り自由の蔵窓に 長一

寒夕焼わが晩年を立ちつくす 篤

独活を待つている孤独のページかな

黒岡洋子

収

大高洋子

収



▲編集長 堀之内長一様



▲発行人 武田伸一様



▲毎回60名近くが参加される「海原俳句会」

春の雷怒っているかと子が尋ね 鈴

終活の進まぬものに古罐 佐稔

★司会の宮崎様のうまさも手伝って、大人数でありながらその句を採った弁と採らざる弁が活発に展開されていく。字面だけで見ると侃々諤々のようだが、実に闊達でけれんみのない物言いは気持ちいいほど。まぎれもなく、師の教えが息づいている。この自由にものが言える空気が、たんぽぽの絮毛のように広がり根を張り葉を広げ育っていくことを、師も願っているに違いない。(木戸敦子)

齋藤 榮様

(新潟県・新発田市)

『越後荒川保内・羽ヶ榎村 齋藤庄左衛門家の謎の研究―祖先へのレクイエム(鎮魂の譜)として―』

今年2月『越後荒川保内・羽ヶ榎村 齋藤庄左衛門家の謎の研究―祖先へのレクイエム(鎮魂の譜)として―』をまとめた齋藤榮様にお話をお聞きしました。

Q なぜこの本をまとめようかと？

父の祖父である、齋藤庄左衛門の伝説的な話は耳にしていた。12歳年上の兄からは、火災に遭う前の家には「鎧や兜、槍がずらりと並んでいた」とか、興味をそそる話を聞かされていた。新年の挨拶に叔父が来てお酒をけると、もう先祖の話。いろいろを聞んでも私も黙って聞いていた。いったい祖先はどうであったのか。伝承が語るほどの家ではないという叔父もいれば、由緒ある家柄だと信じて疑わない叔父もいた。その後者の叔父に「庄左衛門の謎を解明できるのはお前さんしかない」と頼まれたが、教員になって間もない頃でそれどころではなく、以後何十年も忘れていた。



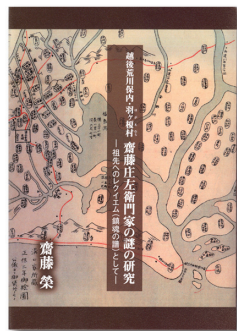
▲にこやかでお話の尽きない 齋藤榮様

Q それがどうしてこの度？

平成29年のある日、所用があつてかつて北越後を代表する豪農であった国井家に立ち寄った。用事が終わって庄左衛門のことを聞こうと、国井家の伝承の有無を尋ねたところ、即座に「ありますよ。家譜に書いてある」と、コピーをくれた。それを読んだ瞬間、先祖は思ったより上のレベルだということに想像された。姫路の藩主本多忠孝(徳川家康の四天王の一人本多忠勝の子孫)が、村上十五万石の藩主に国替えを命ぜられ初めて村上城に入る前日、入城準備のために羽ヶ榎村の齋藤庄左衛門家に一泊したことが記されていたのだ。その時、先の叔父の言葉を思い出した。この資料から、何とか先祖の実態がつかめるのではないかと、勇気と確信を得た。それが2年前の78歳のとき。多くの文献に当たるには視力や根気が弱ってきている、よし80歳までの2年間でやり切ろうと決意した。

Q 順調に進みましたか？

ところがいざ研究を始めるとどこから手をつけたらいいのか。ただ無手勝流にやっけても仕方ないと、手始めに荒川町郷土史を読み、来る日も来る日も図書館に通った。ある日、全国版の豪農渡辺家の借金の証文が出てきた時は大いに喜んだ。でも意味が分からず、その虎の子の借入書を持って紹介してもらった専門家のところに行った。開口一番「ご先祖は侍ですね。給金をもらっていますよ」と。その村上市の郷土史家には様々にアドバイスをいただき、最終的には庄左衛門の祖先は本庄繁長の近習だったことが判明し



▲先祖への供養の一冊

た。祖先が生き生きとよみがえる姿、それを見るときにか読むのだから、それは楽しいものだった。最初は絶望していたが、人から人へとつながって次第に探求心が満たされていった。ただ、それをわかるように書く、まとめることは大変でした。

Q 完成した本は？

短期間でよく調べたとか、表題が長すぎるとかいろいろ言われる(笑)。喜怒哀楽書房さんとは長いお付き合いで、私のことをよくわかっていて、無理を言えた。また、先祖を学ぶことで改めて日本史を学んだ。宗家がつぶれたことと幕藩体制がぶれたこと、時代の大きな波の中でみんな絡んでいる。ちよつと急ぎすぎたかもしれないが、これであの世に行つて祖先に顔向けができる。

Q 諦めずによくまとめられました

調べ始めてから1年10カ月で本が完成。昔から意地っ張りな性格なんです。15歳で進路を決める際も、両親の反対を押し切って中学を出て東京で就職をした。明確な目標を持ち、働きたがら夜間の定時制高校で学ぶ友だちがかつこよく見えたんですね。塗装会社や印刷会社で働きながら自力で高校を出た。回り道をしたとも思うが、今日あるのはその時があったから。共同生

活をしていた先で、大卒の知人が授業の話をしてくれ、その影響で学問が楽しくなった。この先の人生、ずっと学問に触れて生きたいと思うようになり、大学を出て教員になつて新潟に戻ってきた。新発田高校に赴任し、27歳のとき剣道部の顧問に。自分もできないと真の対話が成立しないと、部員から手ほどきを受けた。

Q 剣道は七段の腕前とか

今でも毎日竹刀を振っている。剣道は心気力だが、この歳になると心と気しかない。心気はなんで養われるか？それは覚悟。生きる覚悟、死ぬ覚悟、そしてこれを書く覚悟(笑)。目を覚ますとあとわずかなじゃないかという想念がわく。中村元訳の『ブツダ最後の旅』が愛読の一書。残っている命を大事にするということは、自分のやるべきことをやっけて死ぬ、そういう教えだと思つている。お釈迦様はアーナンダに「もうこのへんでいいだろ、俺の寿命はもう尽きている」と言つて入滅する。そんな生きざま、心境でありたい。次は、パスカルの研究を始めています(笑)。

★剣道の話になると、さつと立ち上がり「この間、距離感が大事なんです」と、今朝は何を課題にどういう人を想定して竹刀を振っていたかをジェスチャー付きで解説してくださる。「どこに立つのが一番理想的か、考えて打つようではだめ、考えないでできるよいうにならない」と。目指すところは「剣道という道の奥」とも。何においても、打ち勝つのは他者ではなく、己である。(木戸敦子)

投稿作品

※誌面の都合上、300作品を超える投稿があった場合、掲載はお一人さま1作品、先着300名様までとさせていただきます。今回の投稿作品数は、259でした。
※しめきり 2019年5月15日(水)まで ※作品は原稿どおりに掲載しております。

川柳

- 1 基準変えに実生活笑いおる
原 崇雄(埼玉県)
- 2 切り詰めた分が衝動買いになる
丸山芳夫(東京都)
- 3 何も言わず逝った夫に問いかける
渡部美代子(山形県)
- 4 平成の御代は良きかな平和惚け
細川光子(栃木県)
- 5 イスよりも若さがほしいドッコイシヨ
近藤富夫(東京都)
- 6 躓いた石が笑って歳をくれ
石原 岳(群馬県)
- 7 幸せの彩でふたりの春を描く
小山恵美子(大阪府)
- 8 辞するとき安堵と寂しさ春の雪
守屋高雄(岩手県)
- 9 福寿草こんもり咲いて淋しげに
岩崎弘舟(岡山県)
- 10 カーブスで十七才も若がり
佐伯セツ子(香川県)
- 11 歳かさね亡父母思う六どの亥
久保壽雄(北海道)
- 12 団欒が家族に戻るスマホレス
長谷川庄二郎(千葉県)
- 13 否定は×記憶無し○伏魔殿
西條公雄(埼玉県)
- 14 順調に老いて自由がせまくなる
木村洋一(新潟県)

- 15 嘘つきは末は官僚政治家か
橋本世紀男(東京都)
- 16 年始でもワイン売れっこ層蘇はじこ
奥那於子(大阪府)
- 17 針という供養あり昭和あり
鈴木義雄(福島県)
- 18 ルージュさす女なのよと一瞬間
関本 守(新潟県)
- 19 四捨五入して百歳の灯を点す
目黒豊光(福島県)
- 20 句を作り人の生きざまかいま見る
松田義登(福岡県)
- 21 延命と言いつつ寿命が切れるまで
和崎治人(山口県)
- 22 嘘は一流進化忘れた厚労省
石尾曠師朗(東京都)
- 23 冗談を真面に受けし四月馬鹿
天野輝子(東京都)
- 24 種蒔きの季節巡り来意気軒昂
有坂馨園(福島県)
- 25 冬薔薇余生の日日を遅しく
井原毬子(東京都)
- 26 太鼓橋背に水仙の元氣よし
居原田暹(大阪府)
- 27 賞もらう人生目指し梅の花
五十嵐陸博(新潟県)
- 28 冴返る五百羅漢に千個の眼
小林七重(新潟県)
- 29 金溜る財布が欲しい春炬燵
井上静夫(栃木県)
- 30 堂裏の崖蔦めくや草氷柱
杉原明子(静岡県)
- 31 和三盆しつとりとけて寒明けける
近藤ともひろ(千葉県)

俳句

- 32 春日和「喜怒哀楽」の句に浸る
齋藤麦堂(新潟県)
- 33 老いらくの伊豆の湯めぐり干鰯
佐々木素風(新潟県)
- 34 歩かむとカフェ迄の道草青む
竹本芙美子(新潟県)
- 35 しばらくは思考休めて春の宵
高崎登喜子(東京都)
- 36 理科室の骨格標本日脚伸ば
こんくにを(東京都)
- 37 遠足の列のびきつてちぎれけり
村田吉雄(東京都)
- 38 御手洗の掬ふ柄杓の落花かな
小澤田梨(静岡県)
- 39 ひらがなのやうにやはらか春の雪
関山恵一(神奈川県)
- 40 鬼は外序でに、唯胡麻菓子も
岩村 昇(神奈川県)
- 41 潮の香や榮螺のふたを集めたる
白戸麻奈(東京都)
- 42 三月や孫のメールの佳き知らせ
内河邦久(東京都)
- 43 うららかや手合はせ唄の婆と孫
古谷 力(東京都)
- 44 戦さ無き平成惜しむ去年今年
山崎吉晴(群馬県)
- 45 灯台も街のきらめき冬の海
松尾らん(東京都)
- 46 梅の香に歩みを止める二人づれ
原田治男(東京都)
- 47 忘れざらめや三月十一日
福岡 悟(東京都)
- 48 遠足の山に化石の眠りをり
すずき笑子(東京都)
- 49 星連れて冬三日月の朝かな
二瓶邦枝(埼玉県)
- 50 春一番免許返納先に延ぶ
横森宏子(新潟県)
- 51 まんまるの笑顔百歳春隣
小島岳青(新潟県)
- 52 父の忌は豆撒く日なり八十年
林 克(福島県)
- 53 盆梅の小さき蕾をみつけたり
檜山柚子香(東京都)
- 54 チコちゃんに叱らるばかり山笑う
望月謙一(東京都)
- 55 うぐひすや古刹に粗き石畳
環 順子(東京都)
- 56 あい性のペンは一本紅梅に
清まさし(静岡県)
- 57 娘の抱く卓上ミシン針供養
神 一男(静岡県)
- 58 結願の香なる墨書や冬に入る
上村元義(神奈川県)
- 59 懸大根三崎の夕日集めけり
堅田秀子(東京都)
- 60 嶺の影隠す無量の牡丹雪
間森 坦(兵庫県)
- 61 雨を得て紅増す番八重の梅
古閑智子(神奈川県)
- 62 公魚の跳ねて曙光にまみれけり
川口 襄(埼玉県)
- 63 装訂に魅かれ手に取る春の書肆
日名子春実(群馬県)
- 64 眸にも匂しみつく野水仙
岩田 信(神奈川県)
- 65 かたくりの花俄か作りの立札に
椋本望生(大阪府)
- 66 ぶらんこのさいなら三かくゆれのこ
津田卿雲(岡山県)
- 67 読み返す古典のあはれ春の宵
堀木和子(大阪府)

- 68 がつがつと村囃んでをり雪解川
湯浅芳郎(岡山県)
- 69 書初めの一字に迷ふ筆の先
片山茂子(埼玉県)
- 70 半袖は孫一人とか浅き春
坪田勝秀(鹿児島県)
- 71 蜆汁まだ箸立に妻の箸
田中 昶(鳥取県)
- 72 ビバルデーの窓からか綿毛舞い
磯部 力(新潟県)
- 73 老いらくの恋の遊び女雪女
松田重信(埼玉県)
- 74 一雨に浮き立つ緋寒桜かな
川嶋法子(東京都)
- 75 七色で足りないドラマ卒業す
長峰正晴(千葉県)
- 76 青き踏む後期高齢余生のまもり
北野耕兵(千葉県)
- 77 嫁ぎゆく孫への一句さくら満つ
大谷 茂(埼玉県)
- 78 茶を立てる面影しのお寒の梅
佐野和彦(静岡県)
- 79 一重より八重を愛する桜花
島村幸重(兵庫県)
- 80 埋葬の雪の深さや奥只見
三津木俊幸(千葉県)
- 81 傘寿越おつりの人生又楽し
白松いちろう(千葉県)
- 82 春寒やこむら返りの治まらず
梶 鴻風(北海道)
- 83 古民家の今宵華やぐ雛祭
中田文子(大阪府)
- 84 春が来たほっこりするよ地蔵もじ
田中恵美子(山形県)
- 85 角帽の今は昔やつばめ来る
鈴木清子(埼玉県)
- 86 探梅や新調の靴案じつつ
九法活恵(埼玉県)
- 87 炊きたての御飯のような春日かな
杉村美保子(岩手県)
- 88 幸一字枝に結びし白寿の春
阿部徳夫(宮城県)
- 89 合格をひとつつかみて又挑む
井田由利子(宮城県)
- 90 巻きぐせのままに一年暦果つ
中嶋清子(佐賀県)
- 91 山椒の芽和へて持て成す旧き友
平林義康(兵庫県)
- 92 立春の待たるる郷や藍の甕
山田富朗(埼玉県)
- 93 口開けて声なき猫の御慶かな
高松玲子(埼玉県)
- 94 野のものを散らす膳より春兆す
溝畑美代子(埼玉県)
- 95 一日を机辺で過ごす春の雪
佐山苑子(埼玉県)
- 96 参道に飴切るリズム鐘牙ゆる
吉里ひとみ(東京都)
- 97 ぜんまいの雑煮なつかし母の味
小田ゆかり(新潟県)
- 98 白梅や兜太自筆の書を抱く
井上 進(千葉県)
- 99 枝垂れ梅思ひの丈を水に置く
井上氣海(広島県)
- 100 立春の朝日に今日の気を貰ふ
大阿久雅子(埼玉県)
- 101 お湯割のほのかな酔や名残雪
佐藤 信(神奈川県)
- 102 種芋の目覚むる頃や縁の下
吉村充治(埼玉県)
- 103 寒紅を差し直しての二次句会
平山千江(岩手県)
- 104 牡丹雪ふわりふわりと海へ消ゆ
寺内 侖(埼玉県)
- 105 初恵比須絵馬に今年も願う「福」
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 106 嬰の名の墨痕淋漓うららけし
一瀬正子(埼玉県)
- 107 雪富士を右へ左へ高速路
中島光江(埼玉県)
- 108 節分会鬼に扮する親に泣く
道給一恵(埼玉県)
- 109 早春の熱川ひとり気楽旅
宇都木安子(東京都)
- 110 米寿とやこれか手相の生命線
渡部 仁(山形県)
- 111 汐香る畑をいろどる金盞花
宮崎敏昭(埼玉県)
- 112 身ほとりにいつも亡夫あり冬の旅
金子範子(高知県)
- 113 雪原に雉舞い降りて眩しけり
鏡たか子(山形県)
- 114 寒空に火種つくりし家主かな
齋藤博洋(秋田県)
- 115 卒業や教師も並ぶ手のアーチ
中村康浩(福岡県)
- 116 大寒も猫の天国路地暮し
早乙女文子(埼玉県)
- 117 流れ雲母の心も遠くあり
浅海和代(東京都)
- 118 蒼空に刃物めきたるモズの声
大場岬月(長野県)
- 119 金箔の茶釜古刹の春障子
本庄準也(埼玉県)
- 120 本日のラッキーカラーやミモザ買う
若月理依子(新潟県)
- 121 とつときの地酒一本露の臺
渥美 保(滋賀県)
- 122 夕間の淡き外灯梅白し
中岡宗治(三重県)
- 123 雪祭領土返還署名する
堀田寿美子(北海道)
- 124 おぼろなる水平線の蒼と青
桜井葉子(千葉県)
- 125 白梅香はあたり鎮めて凜と咲く
木村 舂(山形県)
- 126 くらがりにバケツの浅蜷鳴いてゐる
若林卓宣(三重県)
- 127 故郷は銀の衣に眠る山
大塚徳子(埼玉県)
- 128 春休み一人旅する孫信す
長谷部喜代子(大阪府)
- 129 二人雛愛する妻を愛しけり
伊藤 修(埼玉県)
- 130 早春のローカル線にまごろみぬ
高野ほづ子(千葉県)
- 131 口ずさむフォークソングや草青む
多田文代(東京都)
- 132 草焼きをほーつと眺めて消えるまで
青木涼子(埼玉県)
- 133 継ぐことの父のだんまり種選び
藤井春三(埼玉県)
- 134 曲玉は胎児を模して臙の夜
今井勝子(新潟県)
- 135 立春や歩き初む児の得意顔
鈴木公子(千葉県)
- 136 去年の災知らずに今朝の水仙花
中山日出子(大阪府)
- 137 成田山梅の香りに深呼吸
松前邦広(千葉県)
- 138 苔の上藪椿落つまたひとつ
中野勝子(鹿児島県)
- 139 来世では咲き香れるや沈丁花
齊藤安弘(神奈川県)

140 七十路の中段にいて雛飾る
高垣勝代(大阪府)

141 餌をつるし鳥まち顔の日永かな
本間 進(新潟県)

142 どこかしら母の面影春の雲
本間ミネ(新潟県)

143 粉雪を仄かに被き辻仏
青木ケン子(埼玉県)

144 退職は平成元年花の中
中澤寿美(神奈川県)

145 雪水は無我に流れる永平寺
杉本敬治(愛知県)

146 年号を書き替える額磨く春
岡村君枝(茨城県)

147 春立てり発表待たる新年号
小泉芝雲(千葉県)

148 平成の次代を紡げ福寿草
中川義彦(新潟県)

149 宥怒なる春日ふかまし平成尽
貝瀬光洋(神奈川県)

150 屁理屈の子の成長や春炬燵
清水君江(埼玉県)

151 鉛一つ配られ和む初句会
重原爽美(新潟県)

152 タンポポの綿毛とばして時空超え
田村よし(茨城県)

153 揚げ舟の底の連なり山笑ふ
安田芳江(茨城県)

154 箒目に梅の花弁重りぬ
星 一子(神奈川県)

155 春夕焼水平線を引き寄せて
豊田智恵子(新潟県)

156 除雪車の地鳴りに目覚む午前二時
柴田恵美子(北海道)

157 目だたぬも靴を磨きて生前の繋がり
り偲び通夜に臨めり
夏井寛治(新潟県)

158 新年号寄せる平和を願う民平成のこ
と戦さの無きを 坂元正憲(東京都)

159 さくら咲き迎えし夫の三三忌守られ
し身の幸せの今 峯岸信子(東京都)

160 暖房の効きたる部屋で曾孫たち踊
るテレビの虜になりぬ
青木日出男(群馬県)

161 亡き犬の倅子の話家族皆想い出して
はなみだぐむ 大橋絵代(千葉県)

162 めぐまれて蝶よ花よと育てられ嫁
して苦勞のマザコン夫に
高須 孝(愛知県)

163 雲去りて澄みくる空を仰ぐとき二
羽の鳶もつれつゝ舞う
土屋喜雄(山梨県)

164 豪放磊落かつ緻密繊細が定評とな
れり兜太さん 阿部 至(埼玉県)

165 雪の降る夕暮れの街夢に見さえず
こにありし街か知らねど
桑原謙一(群馬県)

166 鴻に脩誠に康へ連綿と嘉兵衛守りて
エトロフを呼ぶ 早坂絃司(北海道)

167 返事してすぐにも立てた体にも限
界ありと知りて可笑しき
田中豊恵(新潟県)

168 験閉ず「山」「川」「峠」浮かび来
る過疎進みゆくふるさとの村
寒川靖子(香川県)

169 柿すだれ漉した夕日もやわらかく
秋は静かに暮れて行くなり
濱田イサオ(福岡県)

170 年賀状旧暦元旦届きをり今年二度目
のめでたさや 阿部澄江(宮城県)

171 真清水も激めばくさる政権も常態化
する嘘と隠蔽 黒澤正行(福島県)

172 君たちはどう生きるかに異論あり
読み方違いもう一度読む
合田浩子(茨城県)

173 若きらに見守られつつ共に住み気
負うことなく今日も脳トレ
野木宗信(奈良県)

174 退院の夫と久びさデートする「か
るかん」食べる老夫婦の笑み
濱崎祥子(鹿児島県)

175 戦争をせざるをえぬとう見え方を
底からぶちぬけしなくてはすむもの
安部 哲(新潟県)

176 東北の嫁ぐ姫君ひな飾りミニのお道
具数々揃え 本田智恵子(東京都)

177 泉の声とふ伽羅の香の立つ如月の
根津の茶室にうすき午後のおひ
内藤明子(東京都)

178 箸袋に一首書き止むる春の日の女
の宴おしゃべりはすむ
中沢敬子(千葉県)

179 国家民族貧富のあれば人類のかな
しき性や戦争とテロ
村山徳英(埼玉県)

180 東京で新潟の娘に問ひたれば雪解道
の泥んこは嫌 中村万年青(京都府)

181 天筆に友とした、め竹の筆五色の短
冊書の奉納 大鳥居牧子(東京都)

182 老いて日々ゴゼの世界を知ること
つ健康である身の有難き
高橋登志子(新潟県)

183 享年の弟妹急ぎ父母のもと膝に戯
れ童を語る
守安幹男(岡山県)

184 しみじみと孤独の我を慰むる一合
の酒おぼる月夜に
久本にい地(岡山県)

185 美ら海を潰せる基地の建設に人々の
怒り高く響ける 関原幸子(東京都)

186 偶然に後楽園に立ち寄れば優雅な鶴
の舞う姿見む 西山知子(岡山県)

187 吊し雛手鞠に鯉に鶴に亀鳩に童も
皆楽しげに 早坂保文(宮城県)

188 早春の我が散歩道梅が咲き川にか
モがむれて泳いでた
新井 賢(埼玉県)

フォトイック

こちらの写真を見て詠んでいただきました。



(写真提供・伊丹三樹彦さん)

189 見て見てよ寒さ知らずの双子さん
天野輝子(東京都)

190 お母さんの顔より大きいわた菓子か
渡部美代子(山形県)

191 外人も綿あめ好きや春の風
井原穂子(東京都)

192 綿菓子のトーチ母にもお裾分け
居原田暹(大阪府)

193 懐かしい綿あめの唄観桜会
五十嵐睦博(新潟県)

194 年毎に母に似てきし風光る
近藤ともひろ(千葉県)

- 195 外国の双子の女兒や春祭 齋藤麦堂(新潟県)
- 196 まずママが味見してから綿の菓子 高崎登喜子(東京都)
- 197 双つ子の綿菓子うれし冬うらら 小澤円梨(静岡県)
- 198 綿菓子をねだる子供に戻りたし 岩村 昇(神奈川県)
- 199 わが家ではママ試食して子に与え 石原 岳(群馬県)
- 200 綿菓子の味見した母に渡す 山崎吉晴(群馬県)
- 201 アメリカの親子綿あめ興味もち 青木日出男(群馬県)
- 202 平和ってええな子らにも未来ある 小山恵美子(大阪府)
- 203 精一杯私の宝石餼玉 福岡 悟(東京都)
- 204 綿菓子へ吹くフランス語春うらら 二瓶邦枝(埼玉県)
- 205 綿菓子の味をみる母春の風 神 一男(静岡県)
- 206 お揃ひのジャンパー綿菓子笑顔の子 堅田秀子(東京都)
- 207 綿あめを聖火のように双子達 古閑智子(神奈川県)
- 208 綿菓みに背伸びする子や春隣 日名子春実(群馬県)
- 209 幼らの綿菓子でこぼこ夏来る 椋本望生(大阪府)
- 210 綿菓みに子供半纏興じゐて 津田卿雲(岡山県)
- 211 ママずるいそれ僕のだよ自分の 萩田忠征(東京都)
- 212 綿菓子を早くくださいお母さん 岩崎弘舟(岡山県)
- 213 日本の綿菓子ひらく異境かな 堀木和子(大阪府)
- 214 私のヨーママが味見してからヨー 佐伯セツ子(香川県)
- 215 秋祭りやげに買ひし綿の菓子 片山茂子(埼玉県)
- 216 「やったぜ」と期待ふくらむ綿の菓子 倉沢登美子(静岡県)
- 217 素っ気ない仕種に母の温み知る 松田重信(埼玉県)
- 218 おかさんどうぞといえる娘に育ち 田中豊恵(新潟県)
- 219 僕たちもうすぐ聖火ランナーよ 川嶋法子(東京都)
- 220 兄弟とて食べ物ならば早い者勝ち 長峰正晴(千葉県)
- 221 ふわふわの顔よりでかい電気飴 佐野和彦(静岡県)
- 222 子ども等はお菓子一つで親離れ 長谷川庄二郎(千葉県)
- 223 外つ国の綿飴春のまだ遠し 梶 鴻風(北海道)
- 224 春風よこのふわふわは僕のもの 九法活恵(埼玉県)
- 225 子供より親優先の綿菓子か 橋本世紀男(東京都)
- 226 ほらごらん雲がお菓みに大変身 阿部徳夫(宮城県)
- 227 わた菓子に興じる親子万愚節 井田由利子(宮城県)
- 228 平成の最後は雲がわた菓みに 阿部澄江(宮城県)
- 229 しゃぶりつく甘いかおりに子も親も 奥 那於子(大阪府)
- 230 ママ先に味見させてネ綿菓子を 合田浩子(茨城県)
- 231 飛びますよ綿菓子雲に乗る親子 関本 守(新潟県)
- 232 宵宮や箸に綿あめ太りゆく 大阿久雅子(埼玉県)
- 233 ふはふはの綿飴うれし春祭 佐藤 信(神奈川県)
- 234 綿菓子のママも味見や年の市 平山千江(岩手県)
- 235 子より親嘗める綿菓子春日影 寺内 侘(埼玉県)
- 236 わたあめを作る兄ちゃんに憧れたなあ! 濱崎祥子(鹿児島県)
- 237 宇宙人これが綿あめ欲しいだろ 仁藤ひろじ(埼玉県)
- 238 入口の前にも黄の戸綿菓子子 安部 哲(新潟県)
- 239 綿あめはアメリカ産れ知らなんだ 宇都木安子(東京都)
- 240 ダメダメお母さんはずるいよ!! 鈴木蝶次(宮城県)
- 241 ママ!!ぼくにもちようだい 和崎治人(山口県)
- 242 あんたのは少し大きいママ食べる 鏡たか子(山形県)
- 243 あなたにも春風入りの綿飴を 有田裕子(北海道)
- 244 綿あめを顔の容に春一番 本庄準也(埼玉県)
- 245 孫つれて綿あめ食べるなごやかさ 高橋登志子(新潟県)
- 246 綿菓子を舐め合う親子恙なし 久本にい地(岡山県)
- 247 妹に同じ綿菓子せがまれる 守安幹男(岡山県)
- 248 曝け出る違う個性の双子かな 藤井春三(埼玉県)
- 249 綿飴や祭懐かし幼き日 関原幸子(東京都)
- 250 綿あめをママにも少し食べさせて 松前邦広(千葉県)
- 251 地に下りて綿菓子のごと春の雲 中野勝子(鹿児島県)
- 252 花祭姉妹仲よく戯れる 齊藤安弘(神奈川県)
- 253 ママにもと爪先立つ子冬うらら 広畑洋子(兵庫県)
- 254 ハイポーズ親へ向く兄ときどる兄と 本間 進(新潟県)
- 255 綿菓子を買って親子の嬉しそう 西山知子(岡山県)
- 256 原発でなく綿あめを輸出した 安田芳江(茨城県)
- 257 綿あめ大好き大好き親も子も 星 一子(神奈川県)
- 258 祭広場ぐるぐる回る綿あめ機 光成高志(千葉県)
- 259 わたあめやはっぴきこんで笑顔かな 五味田幸夫(東京都)

俳句・川柳募集!!



右の写真から、自由にイメージし五七五(俳句か川柳)で表現してください。応募はアンケートハガキ投稿欄にて。お待ちしております!

(写真提供…伊丹三樹彦さん)



「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんの回答をお寄せ頂きありがとうございました！その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。
※大賞と自句自解コーナーは年1回です。

※今回、昨年一年間で読者のみなさまからジャンルを問わず、一番票の多かった方を年間大賞として発表します。

＊年間大賞(平成30年)

手をにぎるだけの介護や冬桜

関山恵一(神奈川県)



関山恵一様

〈受賞のことば〉

この度は「喜怒哀楽」の年間大賞をいただき、驚きと喜びに浸っています。飯田龍太の「俳句はいのちをいとおしむものであり、それに自然をいとおしむ心があつて初めて俳句の心になる」の言葉に共鳴し、以来人、動植物、海、山その他天地創造の主が造られたあらゆるものの「いのち」を心において俳句を詠んでいます。

「手をにぎるだけの介護や冬桜」

掲句は、同居していた母が認知症になり入院、見舞に行っても私のことは分らず、ただ笑っているだけの母の手をにぎり、体をさすっては帰って来た日々を思い出して詠みました。

2-3月号の心に残った作品

◎短歌部門

25 災いの無き年になれと願うのみ年

号変わる年の始めに

早坂保文(宮城県)

・平和であつてほしいと気持ちと同じ

峯岸信子(東京都)・本当にその通り！大橋絵代(千葉県)・92才のこれまでの記憶の中で自然災害が最も多かったように思います。天災、自然災害のない年になつてほしいです。堀木和子(大阪府)・長寿の時代、大事なく平和な世でと祈るばかりです。田中豊恵(新潟県) ほか

24 復興のつち音鶴首待ちわびる明かりなき窓続く被災地

りなき窓続く被災地

守安幹男(岡山県)

・被災地の状況がよく出ている。一日も早い復興を願う。夏井寛治(新潟県)・岡山のある大災害を忘れてはならない。復興を待つ人々の切ない気持ちが伝わってくる。坂元正憲(東京都)・まだまだ復興がエンドレスで続いている事、そして明りや光の重要性ひしひしと身にせまりました。阿部澄江(宮城県) ほか

◎川柳部門

37 あの頃のふるさと今は夢のなか

鈴木義雄(福島県)

・いや、世の中とふるさととは変わりました。原 崇雄(埼玉県)・私も同感です。細川光子(栃木県)・ふるさとの思い出はつきない。内河邦久(東京都)・ふる里の山や川、歴史ある街並み、友人、家族など、故郷は宝箱。「今は夢のなか」グッときます。長谷川庄二郎(千葉県)・年を取るとやはり故郷がなつかしく年少の頃を思い出します。井上 氣海(広島県)

30 ロボットか異国の人が介護の手

細川光子(栃木県)

・これからの世相に二者択一を迫って面白い。小林七重(新潟県)・介護の現

状をうまく表現している。近藤富夫(東京都)・義母を介護して腰を痛め夢でもロボットにと思いましたが。松尾らん(東京都)・間もなくそんな時代が来るのではないのでしょうか。鈴木蝶次(宮城県) ほか

◎俳句部門

82 七人の敵は老いたりおでん酒

関山恵一(神奈川県)

・高齢の哀惜がいい。望月謙一(東京都)・同期入社の七人であろうか。皆老いて久しぶりの酒盛り。おでん酒で競争相手と思ひ出話で花が咲いている景が目につく。上村元義(神奈川県)・自分も含め「敵」も老いたなという感慨の中に様々な心情が感じられる。寺内 信(埼玉県)・この年齢感がいい。自分も多くの人から七人に入られた。おでん酒がきいている。大場艸月(長野県)・「男は敷居を跨げば七人の敵がある」と言われるが、その敵も定年退職すればもはや味方。おでん酒で一杯。伊藤 修(埼玉県)・男性の皆様ご苦労さまでした。中山日出子(大阪府)・切磋琢磨した友も老いおでん酒に旧交を温めている景が見えます。清水君江(埼玉県)・昔の仕事仲間、競争相手も皆老いて酒量も減ったか。安田芳江(茨城県) ほか

153 喜怒哀楽生きて平成年惜しむ

岡村君枝(茨城県)

・人生日々喜怒哀楽なり。平成もまた日々喜怒哀楽だったと句意を拝読。近藤ともひろ(千葉県)・平成三十年間の喜怒哀楽が偲ばれて残り少ない平成を惜しむ佳句と思ひました。間森 坦(兵庫県)・平成三十年間を思い出し誰

しも思うこと。青木涼子(埼玉県)・平成は本当にいろいろな事が起こった、平成なのに。有島和子(東京都)・平成三十年、人生の白秋期を送ったが、まさに喜怒哀楽を実感。小泉芝雲(千葉県) ほか

◎フォトイック

今回大賞はありませんでした。

◎他にも

12 八十を過ぎて後悔何になる健やかにりと何時も言いたし

田中豊恵(新潟県)

16 目詰りの消雪パイプの整備終へ花開くこと水の吹き出す

夏井寛治(新潟県)

19 積もりつゝまわりの気色変えてゆく雪降る街に外灯のつく

高橋登志子(新潟県)

35 遅くなると言ったら遅く帰ってね

丸山芳夫(東京都)

44 鬼瓦と少子化語る鯉のぼり

小山恵美子(大阪府)

55 あるがまま生きる他なし年暮るる

井原穂子(東京都)

58 初しぐれ三国峠を越えてより

川口 襄(埼玉県)

105 漆黒の牛に風花溶けにけり

津田卿雲(岡山県)

111 湯豆腐や吾にもありし浮き沈み

田中 昶(鳥取県)

148 まわり道これも人生花八手

井田由利子(宮城県)

174 うすれゆく昭和の歌よ年忘れ

柴田恵美子(北海道)

※今後もふるってご投稿をお願いいたします！

Q 前回のアンケート
生まれ変わったら、就きたい職業は何ですか？

★教育関係・学者

- ・教師。「自ら学ぶ力を育てたい」から
渡部 仁(山形県)
- ・再び教員 中村康浩(福岡県)
- ・男性に生まれ変わりたい。男性教師かな。
信念を持って家族も生徒も育てる
濱崎祥子(鹿児島県)
- ・俳句講師。大学の国文学科を出て、
若いうちから俳句を教えたい
井原穂子(東京都)
- ・現在も幼稚園の先生(保母さん)。子
供たちと一緒に居られます
大鳥居牧子(東京都)
- ・保育士。若い時に保母をしていまし
たが、早々と退職してしまったのが
心残り
細川光子(栃木県)
- ・昆虫学者 白戸麻奈(東京都)
- ・数学者又は天文学者又は仙人
湯浅芳郎(岡山県)
- ・天文学者。数年プラネタリウムで星
空解説をしたことがあります
寺内 侖(埼玉県)
- ・日本史の研究者 合田浩子(茨城県)
- ・発明家、世の中を幸せに、明るくで
きるものが提供したい
白松いちろう(千葉県)



★医療関係

- ・哲学者 古谷 力(東京都)
- ・歴史学者 石尾曠師朗(東京都)ほか
- ・医者(病弱なので)
中村久仁子(京都府)
- ・薬剤師さん(理数系が得意で生れ変
らなければ...) 若月理依子(新潟県)
- ・患者の相談役になれる様な薬剤師
天野輝子(東京都)
- ・漢方医、鍼灸の出来る薬房・薬剤師
古閑智子(神奈川県)
- ・看護師。人の手助けとなる
渡部美代子(山形県)
- ・又看護師です。やりがいのある仕事
でした。生きがいのある人生でした
金子範子(高知県)ほか

★作家

- ・「旅の作家」宇宙への旅も...
松田重信(埼玉県)
- ・ミステリー作家 本間 進(新潟県)
- ・絵本作家 溝畑美代子(埼玉県)
- ・作家(今もうやっています)
光成高志(千葉県)
- ・作家・演出家 木村 舂(山形県)
- ・作詩家 岡村君枝(茨城県)
- ・小説家。読者が神様だ。公平に読ん
でくれ評価してくれるから
居原田暹(大阪府)
- ・俳句作家になってみたい
浅海和代(東京都)ほか

★芸術

- ・画家 西條公雄(埼玉県)
- ・書家 中岡宗治(三重県)
- ・彫刻家&フロッリスト
北野耕兵(千葉県)
- ・風景画家、写真的に風景を描くこと
に憧れます 大阿久雅子(埼玉県)
- ・陶芸家 高松玲子(埼玉県)



- ・放浪画家になりたいです
佐々木崇嗣(新潟県)
- ・オーケストラの指揮者。タクト一本
で観衆を魅了させたい
石原 岳(群馬県)
- ・オペラ歌手(声が悪いので)
多田文代(東京都)
- ・音楽家 青木涼子(埼玉県)
- ・楽器の演奏家。世界を演奏旅行した
い 和崎治人(山口県)
- ・歌舞伎役者
三津木俊幸(千葉県) 小泉芝雲(千
葉県)
- ・芸者さん 阿部澄江(宮城県)
- ・女優(バーチャルとはいえ、素の自
分とは別の自分を生きられるから)
小林七重(新潟県)
- ・カメラマン。世の動きをわかりやす
い映像で残していきたい
長峰正晴(千葉県)
- ・落語家
岩崎弘舟(岡山県) 久本にい地(岡
山県)ほか

★報道

- ・アナウンサー
小澤円梨(静岡県) 椋本望生(大阪
府)
- ・野球の中継してみたい
黒澤正行(福島県)
- ・ニュースキャスターです。いろんな
意見に出会えるところかな
中川義彦(新潟県)

- ・ジャーナリスト 齊藤安弘(神奈川県)
- ・新聞記者
寒川靖子(香川県) 井上 進(千葉
県) 渥美 保(滋賀県)

★スポーツ

- ・スポーツ指導者 山田富朗(埼玉県)
- ・スポーツ選手 川嶋法子(東京都)
- ・プロのマラソンランナー
新井 賢(埼玉県)

★旅行・航空

- ・CA。内定していたのに家業を継ぐ
事になり今でも残念
松尾らん(東京都)
- ・パイロット。目が悪くなり断念。今
度こそ 梶 鴻風(北海道)
- ・人を喜ばず旅行業
岩村 昇(神奈川県)
- ・ツアーガイド。世界中を巡りたい
関山恵一(神奈川県)
- ・ツアーコンダクター
関原幸子(東京都)

★ドライバー

- ・旅行会社に勤めたい
中山日出子(大阪府)ほか
- ・車の運転をして運転手になりたい
片山茂子(埼玉県)
- ・女性の大型トレーラー運転手。見て
いてほればれします
奥 那於子(大阪府)

★調理・製菓

- ・パン屋、そば屋 高橋登志子(新潟県)
- ・居酒屋のおかみさん(人が好きで、
観察するのも好きだから)
有島和子(東京都)
- ・パティシエ 大橋絵代(千葉県)
- ・日本料理人(京料理人)
近藤ともひろ(千葉県)

- ・栄養管理士 中田文子 (大阪府)
- ・菓子製造業のおかみさん 峯岸信子(東京都)

★農業・林業・漁業

- ・「農業」二十八歳の時集団転作で水田農家を断念したので

久保壽雄(北海道)

- ・200ha位の大農場の経営者

守屋高雄(岩手県)

- ・近代化した農業者

夏井寛治(新潟県)

- ・生れかわっても「農業」かな

本間ミネ(新潟県)

- ・農業(実家が農家でした)

宮崎敏昭(埼玉県)

- ・花作り農家(温室で露地で好きな花いっぱい)

守安幹男(岡山県)

- ・花卉園芸 日名子春実(群馬県)

草花や花木を育てる仕事。種子を播いたり挿し木したり

- ・庭師さん 佐伯セツ子(香川県)

早坂保文(宮城県)

- ・漁師 早坂保文(宮城県)

生活出来る収入のある林業

- ・間森 坦(兵庫県)

★その他

- ・完全専業主婦。これが一番です

今井勝子(新潟県)

- ・主婦(好きな趣味をすること)

中嶋清子(佐賀県)

- ・手作り靴職人

小島岳青(新潟県)

- ・施盤工、大工、石工、床屋

関本 守(新潟県)

- ・家具を設計から制作・販売を一貫して経験してみたい

長谷川庄二郎(千葉県)

- ・公務員、政治家 田中 昶(鳥取県)

- ・再度サラリーマン(公務員)

藤井春三(埼玉県)

- ・サラリーマンでいいですヨ私は。窓口でお客さん相手かな

神 一男(静岡県)

- ・ヘルパーさんのような仕事人。介護

福祉の仕事、男はつらいよ

- ・老人ホームの介護職員に就きたい

五十嵐陸博(新潟県)

- ・「介護を卒業したから、やりたい事をしたい」方々の趣味の手助けして

松尾正一(岩手県)

- ・上げる立場の人になりたい

仁藤ひろじ(埼玉県)

- ・現場たたき上げの刑事になって弱い人を助けたい

井上静夫(栃木県)

- ・山岳救助隊(警察官)

こんくにを(東京都)

- ・建築家・陶芸家 桑原謙一(群馬県)

大場艸月(長野県)

- ・寺の住職(僧) 早坂紘司(北海道)

宗教関係

- ・女性僧侶 吉里ひとみ(東京都)

政治家 中野勝子(鹿児島県)ほか

- ・弁護士ですかね 伊藤 修(埼玉県)

文芸評論家 村山徳英(埼玉県)

- ・編集の仕事 小田ゆかり(新潟県)

なれるなら宇宙飛行士

- ・ミッキーマウスの中の人か、殺陣師

小山恵美子(大阪府)

- ・学生という職業があれば学生がよい

すずき笑子(東京都)

- ・技術者

原 崇雄(埼玉県)

- ・井上氣海(広島県)



- ・外交官 二瓶邦枝(埼玉県)

・商社に勤め世界の国に貢献したい

- ・許せば流浪人 福岡 悟(東京都)

・航海士。世界一周で各地を回り文化や人情にふれたい

- ・自由人。職業にこだわらない生き方がしてみたい

岩田 信(神奈川県)

- ・刃物研ぎ師 街より子(埼玉県)

・刀剣の作者。二尺六寸位の細身の太刀を打つような鍛冶屋

- ・牧場の経営 青木日出男(群馬県)

山崎吉晴(群馬県)

- ・耐震審査士 豊田智慧子(新潟県)

阿部徳夫(宮城県)

- ・大実業家

飾り付け? デイスプレー

- ・動物園の飼育員 稲葉民雄(千葉県)

貝瀬光洋(神奈川県)

- ・同じ職業。やり直したいことあり

目黒豊光(福島県)

- ・本屋さん 佐山苑子(埼玉県)

・民宿 早乙女文子(埼玉県)

- ・もし許されるのなら無職 杉本敬治(愛知県)

ほか



やはり『喜怒哀楽』の読者! ものを書く職業、作家や新聞記者という方が複数いらっしやいました。そこで、新潟日報社の記者、編集局長、常務として40年間勤めあげた渡辺隆さんに、記者時代の感想をお寄せいただきました。

「ブンヤ」と呼ばれたころ



渡辺 隆さん

なんで新聞記者になり、なんで故郷に帰ろうと
思ったのか。東京で身の丈以上の職業を考えてい
たからなのだろう。編集職には関心があった。で
きれば出版社に入りたかった。似たようできて新
聞記者の仕事とは隔たりがある。最初に警察取材
(サツ回りという) から始めたころ、担当警察署
の交通課長から「なんでおまえ新聞記者になったんだ。銀行か役所がよかつた
んじゃないか」と言われ、顔つきまで指摘されながらそうかな、と妙に納得した。
「ブンヤさんはなあ」と説教され、敬称付きに時代の変化を感じた。ブンヤと
いう言葉には正義感をひっかけながら、どこか胡散臭い人間というイメージがま
とわりつく。大手企業に勤めていた叔父から「記者だけはやめろ」と忠告され
たこともある。ブンヤも死語になったようだが、しかしブンヤには別の語感も
ある。それは奔放と自由。これがあつたから、後輩から引退時に花束をもらっ
まで続けた。ああ幸せだなあ。

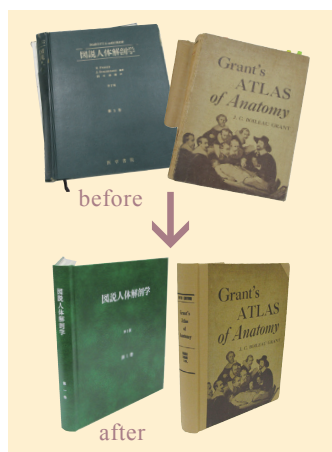
編集室だより

生きているといろんなことが起こります。一日の中でもあんなこと、こんなこと、ほんといろいろとありますね！ そんな日常に転がる喜怒哀楽を、編集室よりお届けします。

本の「合本・修理」承ります！

もう買えない、絶版になった本、傷んだ本はありませんか？ あなたの大切なその本、修理をすれば生まれ変わります！

結社誌、研究資料、雑誌、広報誌等の冊子、本棚でまともな状態で困りではありませんか？ バラバラに保管されているその本、合本（1冊の本）にします。詳しくは一度お問い合わせください。



「本づくり体験パンフレット」無料ダウンロードコーナーを開設！

当社ホームページに、「本づくり体験パンフレット」を無料でダウンロードできるコーナーをつくりました。資料を請求するのはまだ早く感じる…という方におすすめです。物語形式で、本づくりを疑似体験(?) いただけます。

喜怒哀楽書房

お問合せ・資料・サンプル・お見積り
フリーダイヤル
0120-819-395



当社でお手伝いした本がAmazonで販売中です。

『石川雲蝶伝』(こうじまちとら著)をAmazonでご購入いただけるようになりました。石川雲蝶って誰?と、新潟県民でも知らない方が多いかもしれません。雲蝶はその多才さゆえ「日本のミケランジェロ」と称される江戸末期に活躍した彫刻師。その作品は三条市の本成寺や石動神社、魚沼市の西福寺・開山堂、永林寺などに多く残されています。

本書は前半が小説、後半が漫画によって構成されているのが特徴で、雲蝶が越後に来た理由や婿養子となった経緯などがエンターテインメント性豊かに描かれています。ぜひチェックしてみてください。

Amazonは利用したことがないけれど注文したい、という方は当社までご連絡ください。1冊1728円(税込・送料込)でお送りいたします。



本誌の読者になってくれる方のご紹介、ありがとうございます！

本誌「喜怒哀楽」がもっとたくさんの方で盛り上がるマガジンになるといいなと思っております、と前回書いたところ、読者の方々からたくさんのご紹介をいただきました。ありがとうございます！ 返信用アンケートに、お友だち紹介欄を設けてあります。「この方

にも送って」という方がいらっしゃいましたら、教えてください。お送りします。

本誌「喜怒哀楽」の応援、ありがとうございます！

無料化した本誌「喜怒哀楽」を継続発行できるよう、基金のようなものを考えています、とお伝えしましたところ、読者の方から親身なアドバイスを頂戴しました。ありがとうございます！

検討の結果、これまで送料のお振込み先として利用していた郵便局口座をカンパの受付先とさせていただくことにいたしました。

一口いくら、などの設定はございません。もし、ご支援いただけそうでしたらお願いいたします。

口座名 株式会社ミューズ・コーポレーション

記号00530-4 番号081370

皆様の応援・お力で本誌「喜怒哀楽」を発行できますことを、あらためて感謝申し上げます。

展示会「page 2019」に出展しました！

2月6日～8日に池袋サンシャインシティで開催された印刷メディアビジネスの総合イベント展示会「page 2019」に出展。木戸敦子が2日間ブースに立ちました。



また、どこかの展示会に出展するかも？ その際はお知らせいたしますので、ぜひ遊びにいらしてください。

トキワ荘のリーダー 寺田ヒロオ

いづな ひろみ
伊豆名 皓美

にいがた文化の記憶館では、4月2日から5月26日まで、企画展示「子どものマンガの世界から」を開催します。マンガとアニメはいまや、クールジャパンの日本を代表する情報産業のひとつになっています。戦前・戦後に子どものものであったマンガは、雑誌の隆盛により発展し、子どもだけのものではなくなりました。この企画展では、マンガの歴史とともに新潟のマンガ家たちを紹介します。そこで本稿では、昭和30年代に活躍したマンガ家・寺田ヒロオ（1931～1992）について取り上げます。

1996年公開の映画「トキワ荘の青春」は、藤子不二雄（藤子・F・不二雄、藤子不二雄[Ⓐ]）や石ノ森章太郎、赤塚不二夫ら、後にマンガ界をけん引する数多くの巨匠たちが住んでいたことで有名なアパート「トキワ荘」（東京都豊島区）を舞台に、彼らの熱き青春時代を描いた作品です。主人公の寺田ヒロオを、本木雅弘が演じました。面倒見のいいトキワ荘のリーダー的な存在「テラさん」として、仲間たちから愛され信頼された姿を見ることができます。寺田ヒロオは新潟県西蒲原郡巻町（現新潟市西蒲区）で生まれました。進学した旧制新発田中学校（現新潟県立新発田高等学校）では野球部に所属し、この時期に少年漫画雑誌『漫画少年』と出会いまし

た。寺田にとって新発田市での日々は、野球とマンガに夢中になった時代でした。寺田がマンガ家になるため上京したのは22歳の時でした。同年の大晦日にトキワ荘に入居し、4年後に結婚を機に退居するまで暮らしました。

寺田ヒロオの代表作といえば、昭和30年代に描かれた『背番号0』『もうれつ先生』『スポーツマン金太郎』などの野球・柔道マンガが挙げられます。『スポーツマン金太郎』の主人公の金太郎は、真ん丸な目特徴的で純粋な少年です。かわいらしい子どもたちと、子どもを尊重する優しい大人たちが登場する幸せなマンガです。

しかし時代は、劇画ブームの影響から、派手な動きや刺激的なストーリー、セリフよりもアクションでのストーリー展開などがもてはやされるようになります。また漫画雑誌の週刊化に伴い、編集者はマンガ家により早く原稿を仕上げるよう要求しました。そのような中で、一貫して純粋で正統派の児童マンガを理想とした寺田は、時流に耐えられなくなっていました。そして1964年、33歳で少年週刊誌に描くことを自らの意志でやめてしまいます。

寺田ヒロオは、マンガ界の流れに苦悩し自ら筆を折ってしまいました。1985年54歳の時には新発田市で「寺田ヒロオ漫画展」が開かれました。これは、旧制新発田中学校時代の同級生たちや新発田市が企画したものでした。寺田のあたたかい画風と彼の理想とした良心的なマンガを慕う声は、今もやみません。

【展覧会情報】

企画展示「子どものマンガの世界から」

会期：4月2日(火)から5月26日(日)

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日休館）・4月30日(火)



“ありがとう”俳句人生に乾杯!

2

4年間にわたり本誌に「食楽句楽」のコーナーで縦横無尽にペンを走らせていただいた岩田桂さま。俳句によって人生をより豊かで充実したものとされてきた、その俳句人生の一端を6回にわたり雄弁に語っていただきます。

俳句は人生のパートナーです

岩田 桂

私たちの人生にとつての俳句とは、一体どのような存在なのでしょう。皆さんはどうお考えですか。私も二〇数年を俳句に入り浸りながら、何を求めようとしていたのでしょうか。

しかも人生には**四住期**があることを踏まえて、俳句との関係を、どのように思索していたのでしょうか。その答えがおぼろげながらもえてきたのが、六〇歳を過ぎてからです。

いわば「**林住期**」(六〇歳から七五歳)を迎えた頃からです。セカンドライフへの生き方やその楽しみが、俳句によって、もたらされるのではないかと気づきました(ドキッ)。

言わば俳句は私たちの人生のパートナーであり、恋人なのではないか。そう気づきました。もちろんそれくらいは分かっているよ、と笑い飛ばされる著名俳人は多いですが、その俳句がもたらしてくれる人生を我流にて、皆さんにお伝えいたします。笑読ください。

〈おい、お前、俳句のどこが好きなんだあ〜〉
ハイハイお答えいたします。ザツと行きますヨ。

○晩年三〇年の暇つぶし人生を手伝ってくれる相棒ですよ(老後には約八万時間ある)

○いろいろな喜怒哀楽を通しての人々との交流が生まれる喜び

○公開の場で佳作して褒められる喜び(朝日俳壇の入選など)

○知力、体力、精神力を磨きあげられる喜び(認知症を防いでくれる)

○新しい世界感を持ったもう一人の「文字のカメラマン」となる喜び

○思いがけない一七音字の「心の写真」を授かる時の喜び

○後世に記録として残せる自分史の喜び(棺桶に入られる最高の遺産)

○食事会の時間を惜しみなく活かせる喜び(句楽食楽、お酒がうまい)

○男や女を諦めない人生を謳歌できる喜び(不倫はダメ)などなど・・・以上です。

いやはや、俳句とはまさに人心を揺り動かす世界最短の定型詩であり、ホルモンです。しかも魂汗をかかせてくれる、神仏のお声に等しい喜びを、味わうことができます。

紙と鉛筆と五・七・五の言葉さえあれば、あとはお金も要らない、自分だけの虚空への挑戦とその喜びを獲得できます。右脳と左脳に巡り行く花鳥風月との対話を可能にしてくれます。

私が周りから笑われながらも、俳句との付き合いを続けてこられた心の糧には、以上の喜びがあつたからです。さらに七五歳からの「遊行期」(七五歳から九〇歳)を迎えた私にとつての、これからの生き甲斐なのです、お分かりいただけますでしょうか、皆さん・・・このページでお伝えしたいメッセージを、総括すると次のようになります。

「俳句とは、**天(神)**から授かった贈り物(季節 閃き)を、息を吸い込むように五感で受け、それを自分ファーストの一七音字の詩に置きかえて、改めて息や声を吐き出しながら**天**にお返しし、捧げものとする言霊活動である。それゆえに我らは俳句に不思議なエネルギーと喜びを感じてやまない。ありがとう、**天声人語の俳句さん**」

たかが十七音字の一行ですが、約五百万人とも言われる俳句人口の伝統文化です。しかも遊行期を迎えた私です。あの世へ旅立つ刻までは、人生のパートナーとして私はお付き合ひさせていただきます。セカンドライフの生き甲斐の空間を楽しんでいきます。

いかがですか皆さん、今からでも自作自演の俳句をやってみませんか。



第10回 良寛・国上寺全国俳句大会

来たる9月23日(月・祝日)、良寛さまゆかりの国上寺・五合庵で開かれる「第10回良寛・国上寺全国俳句大会」のチラシ兼投句用紙を同封しました。締切は6月30日(日)です。賞や様々な特典もありますので、ふるってご投稿ください。



俳句の選句・整理サービス承ります!

お客様の困った!を解決したい

せっかく書きためた俳句を一冊の句集にまとめた!という思いはあるものの…たくさんの俳句から選びきれない、選んだ句をどういう順番で掲載していいのかわからない…ということで二の足を踏んでいらっしゃる、そんなあなた様に朗報です。俳句の整理・選句サービスを承っています。句集をまとめたという方は、今すぐお問い合わせください。



野菜のポストカード

1セット12枚入り1000円(送料込み)。今回はアスパラを同封しました。美味しそうな野菜で、季節のメッセージを送りませんか。ご注文は同封の振込用紙をご利用ください。



第34回 国民文化祭・にいがた2019、第19回 全国障害者芸術・文化祭にいがた大会「ことばフェスティバル～花火と良寛の地で～」作品募集!

【募集部門】俳句、短歌、現代詩
【募集期間】4月1日(月)～6月30日(日)
※当日消印有効

【対象】一般、高校～大学生(専門学校生含む)、小・中学生

【応募料】一般の部のみ有料

- (俳句) 2句1組ごとに1,000円
- ※5組=5,000円まで応募可
- (短歌) 1人2首までとし1,000円
- (現代詩) 1人1篇とし1,000円

【応募規定】「花火」・「良寛」がテーマ。この2語を読み込むことに拘らず、言葉から受けるイメージ、「長岡・柏崎エリア」の自然や風景、祭りやイベント、文化素材などにも自由に展開させた作品を募集。詳しくはホームページをご確認ください。

【応募方法等】

- 応募条件 本人が創作した未発表の作品に限ります。
- 郵便振替口座00520-0-103534 加入者名「ことばフェスティバル係」
- 応募方法 郵送、メール、FAX

※応募用紙等はホームページからダウンロードできます。

【賞】(予定) 文部科学大臣賞、国民文化祭実行委員会会長賞、新潟県知事賞、新潟県教育委員会教育長賞、各団体賞
【結果発表】入選以上の作品は10月26日(土)に開催する「詩フェスティバル・ステージイベント」に合わせて公表します。

- 入選以上の作品はホームページに掲載します。
 - 入賞作品の巡回展示を行います。
 - 作品集 入選以上の作品を掲載した作品集を刊行し、一般部門は応募者全員に、その他の部門は学校等の単位で1冊ずつ無料配布します。
- 【問い合わせ・応募先】〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1(新潟県文化振興課内)「ことばフェスティバル」係
Tel 025-280-5933 Fax 025-280-5221

メール kotofes@pref.niigata.lg.jp ホームページ <https://niigata-futtotsu.jp/kotofes/>



スタッフの一言

Q. 生まれ変わったら、就きたい職業は何ですか?

木戸 敦子



たくさんあったはずなのに、実態を見聞きするにつけてこれ!と言えないのがちょっと悲しい。玉村豊男的な耕して食して書く的なことはいいなあ。またはなんか屋(えっこれ新潟弁!?)

古川 久美子



現世でいっぱいいっぱい(え)。でも、やってみたいことは職人系かなあと思う。一人でコツコツ進める系?

菅 真理子



いろいろ懂れる職業がありますが、伝統工芸職人。でも、外から見るだけでその世界を知らないから言えるんだらうなと思います(恐縮)。

山田 民子



都会か、お洒落な街の坂道を登った所にある雑貨屋さん。お休みは不定期で、気が向いた時にお店を開ける。あれ?ジブリの映画で見たような……。

木伏 美恵



建築家。その前に高校を出たらスペインに渡り、何でもいからサグラダ・ファミリアの建築に携わる。

上村 眞智子



日光江戸村に行ったとき、江戸の町人のいでたちのスタッフを見て「ああ～ここで働きたい!」と思った。手拭いなどを売る黄八丈を着た町娘やキレッキレの演技をするくノ一になりたい。

石山 由希子



海が見える小さな町に住んで(絵本ばい)、そこに時々おり人々が訪れる。お茶でも飲みながら話を聞く。ついでに手相でも見て元気づける。

吉田 瞳



陶芸作家、ダンサー、ミュージカルアクター、ディズニーダンサー!むしろ才能があればなりたかった。何者にも縛られない、自由に表現でき心揺さぶるお仕事。

佐々木 祥子



できれば人間じゃないものになりたい。どうしても人間になるなら、オーケストラで演奏したり芸術家として自分の思うままに心血を注いで表現を楽しみたいです。

春・弥生狂言

小泉芝雲

春の代表的歌舞伎関連季語は「弥生狂言」だが、これは旧曆三月からの興行、又はその演目のことを言います。三月は、大奥ならびに諸侯奥向きに勤務する御殿女中の宿下がり（めいぼくせんたいはき）の月に当たり、その女性を当て込み「お家騒動もの」である『伽羅先代萩』、『加賀見山田錦絵』や「御殿もの」の『新薄雪物語』、『恋女房染分手綱』等奥女中が登場し活躍する演目、又は新作を含めて『櫻姫東文章』等の華やかな演目が上演されました。又團十郎が出勤する劇場では『助六所縁江戸桜』等が上演されました。

何を着て行かむ三月狂言に

森田 峠

春は何といても梅、桜が主役であり、芝居の方もこれらの釣り枝を劇場に飾り、舞台（書割も含め）には梅や桜が咲き揃った多くの芝居が演じられます。例えば梅でいえば、女に化けたお嬢吉三が大川端で、黒地に梅模様の振り袖姿で、海鼠壁越しに咲く紅白梅を背に、「月は朧に白魚の……：……：いつあ春から、縁起がいいわえ」と、名台詞を歌い上げる『三人吉三』や、菅原道真公と三つ子の兄弟舎人（牛舎を引く雑人）松王丸、梅王丸、櫻丸を絡ませた『菅原伝授手習鑑』の芝居があります。特に『車引』の段は梅満開の吉田社頭前における悪役藤原時平と三つ子の兄弟の絡みの見得が見事ですし、特に紅隈をとった梅王丸が、花道を太宰府に向け飛び六方で引つ込む姿は勇壮です。又同じく「寺子屋」の段では、道真公の一子菅秀才を助けんと松王丸と武部源藏の画策から源藏の「せまじきものは、宮仕えじゃのー」の台詞は当に俳句の季語「春愁」を感じさせます。

春愁ふせまじきものは宮仕へ

芝 雲

前回2月号から始まった6回連続の「歌舞伎を詠む」は、おかげさまで大好評！日常と同様に劇場や舞台も一気に春めいて、旅情ならぬ劇情（!?）がそそられます。第二回目も……待ってました！

もう一つ梅にまつわる芝居として『新版歌祭文』（通称野崎村）があります。これは質屋の町娘お染と田舎娘で久松の許嫁お光が丁稚久松をめぐる恋の三角関係を描いた芝居で、大坂から久松を追っかけてきたお染にお光は久松を譲り、厄になるのですが、野崎村の久作宅には紅白梅が咲いていて、その色が当にお染の紅梅、お光の白梅に見えてくるのです。因みにこの芝居四月歌舞伎座で時蔵のお光、雀右衛門のお染で上演されています。

桜の芝居も数多くありますが、『義経千本桜』のうち「吉野山」（静と狐信忠の舞踊）、「四の切」更には『妹背山女庭訓』のうち「山の段（吉野川）」、「櫻姫東文章」、「一谷嫩軍記・熊谷陣屋」更に『弁天娘女男白波・序幕初瀬寺観音堂・稲瀬川勢揃い・大詰極楽寺』が有名。因みにこの三月歌舞伎座で上演された『弁天娘女男白波』では、弁天小僧を幸四郎（高麗屋）と猿之助（澤瀉屋）が日替り交代で、お家芸としている菊之助（音羽屋）に負けじと演じておりました。

二の腕の刺青かくす花ぐもり

水原秋櫻子

又舞踊では『京鹿子娘道成寺』が有名で、白拍子花子が、櫻の満開の道成寺で娘の恋を全十四段に分け踊る姿は圧巻です。長唄で「鐘の恨みは数々ござるのー」と歌い始めるこの踊り、名女形玉三郎はじめ立役ながら踊りの上手い十八世勘三郎がそれぞれの舞姿を見せてくれました。

座について供養の鐘を見上げたり

高濱虚子

春の芝居は多く、すべてを書き尽くせませんのでまたの機会に致しましょう。

本日はこれ切り

2019.4-5. vol.103 (2019年4月10日発行/隔月発行)

●発行・印刷/株式会社ミュージック・コーポレーション

〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29

TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550

喜怒哀楽書房

株式会社ミュージック・コーポレーション

☎0120-819-395 Facebookもチェック

e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com

郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社ミュージック・コーポレーション

編集後記

88歳の父が圧迫骨折のため3ヵ月入院し、夜は極力病院に顔を出した。そこで様々な人間模様を見た。「ありがとうございます」とニコニコ顔で看護師さんに連呼する94歳の方は、70代の娘がくるといつもより威厳を帯びた態度になって「気をつけて帰れや」と何度も言って送り出した。入院中、私の書いたエッセイもどきが新聞に載ることになり、新聞を持って「ほら」と見せると「見たて」と言った。リハビリの時しか動こうとしなかったのに、いつの間にか歩行器で新聞のあるところまで行っていた。帰りがけには「楽しみにしてる」と言った。親はありがたい。恥じないよう、精一杯生きようと思う。（木戸敦子）